

令和 8 年度 第 1 回小林市総合教育会議要点録

- 1 日 時 令和 8 年 6 月 23 日（火） 15 時 30 分～16 時 15 分
- 2 場 所 小林市役所 本館 3 階 第 3 会議室
- 3 出席者 小林市長 堀 研二郎
 教育長 大山 和彦
 教育委員 大部 蘭 智子、永井 良雄、小牧 直美、川畑 香
 関係課 教育部長、学校教育課長、教育指導監、学校教育課主幹
 事務局 総合政策部長、企画政策課長、企画政策課主幹、企画政策課主事
- 4 内容

発言者	内 容 （要 旨）
事務局	（開会） 事務局から開会あいさつ
市長	（市長あいさつ） 小林市の教育行政にお力添えいただいている、教育長はじめ、教育委員の皆さんに感謝申し上げたい。 本日は、皆さんの忌憚のない意見をいただき、よりよい教育界になるよう意見交換をしていきたい。
学校教育課長	議題 今後の学校の在り方について 小林市内小中学校の在り方について、教育委員会としての方針の概要を説明 ①再編の方針 小学校は現在の市内 12 校を維持、中学校は 9 校を小林地区 2 校、須木地区 1 校、野尻地区 1 校に再編 ②再編の時期 再編後の中学校は令和 13 年 4 月 1 日から ③学びの多様化学校（不登校特例校）の開設 ④少人数指導の推進 小学校は 30 人学級編制、中学校は 35 人学級編制
教育委員	・児童数の減少による困り感や人間関係の固定化が感じられる。 ・統合という面から考えると、県全体における教員不足の解消につながる。 ・説明会や保護者との意見交換会、児童生徒のアンケート等を踏まえた今後の学校の在り方に関する方針案ができたと思う。 ・須木地区の小中学校の在り方については今後も検討が必要ではないかと感じる。

	・小規模校ならではの良さもあるので、地域に根ざした学校を残すことにも意味があるのではないかと考える。 ・学校と地域のつながりがとても深いところもあるため、それが薄れていくのは心配である。 ・生徒数が少ない中学校で自分がやりたい部活動ができない現状があるので、そういった面から考えても再編が適正だと考える。 ・「子どもたちが育つために一番良い環境は何なのか」を念頭に置いて、方針を進めていくことが求められる。
市長	・小規模校や大規模校関係なく、様々な児童同士の関わりというものが必要。 ・中学校については再編が適正である。
教育長	・地域から出た意見として「まちづくりとの関連性」が数多く出た。 ・教育委員会・市・地域が足並みを揃えていきながら取り組んでいく必要があると感じた。
教育指導監	議題 小林市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の実施状況について 教育職員が健康を保持しつつ、自己研鑽の時間を確保し、専門性を最大限に発揮できる勤務環境づくりを目的としており、教育職員のウェルビーイングを確保することにより、小林市の未来を担う子供たちの豊かな学びと成長を実現することを目指す。 【教職員の働き方の現状と課題】 ・残業時間が月 45 時間を超える教育職員の割合は、平成 30 年度は 48%だったが、業務改善等を通して、令和 6 年度には 20%にまで減少した。 ・生徒指導や学習指導等に高いストレスを抱えている教職員の割合が、8.1%だった。 ・令和 11 年度までに 45 時間以下の教育職員の割合が 100%を目指す。また、高ストレス者の割合をゼロ、そして誇りややりがいを持って仕事ができている教員の割合を 90%以上とする。 【負担軽減すべき業務の見直し】 ①学校以外が担うべき業務 登下校時の通学路の見守り等 ②教師以外が積極的に参画する業務 調査・統計等の回答、部活動等 ③教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務

	デジタル教材の活用、専門的人材の配置等 【教育職員の健康及び福祉の確保】 ・長時間勤務者への医師等による面接指導 ・ストレスチェックの実施 ・職員の健康確保措置を実施 学校における働き方改革については、本計画について、年度初めの校長会及び教頭会にて管理職に説明して推進を図る。
教育委員	・中学校教頭の残業時間が長いことが当たり前になってきている。校長をはじめとする管理職が率先して取り組むことが大切。 ・近年、ワークライフバランスを充実させることが強く求められている。自分の時間を大切にできるよう、働き方改革が推進されてほしい。
市長	・教頭先生の時間外対応が非常に多い。出勤時間をずらしたり、業務の分担をしたりするなどの対応を通して、改善を図る必要がある。
事務局	(閉会)